様式第１６（第４０条関係）（第一面から第三面まで）

| 認定申請書  申請年月日　 　2025年　6月　10日    　　経済産業大臣　殿  （ふりがな）まっどらぼかぶしきがいしゃ  一般事業主の氏名又は名称　MudLab株式会社  （ふりがな）おおたき　まさふみ  （法人の場合）代表者の氏名 大滝将史  住所　〒104-0061 東京都中央区銀座1丁目22番11号  銀座大竹ビジデンス2Ｆ  法人番号　3010001212037  　情報処理の促進に関する法律第３１条に基づき、情報処理の促進に関する法律施行規則第４１条（①第１号、②第２号）に掲げる基準による認定を受けたいので、下記のとおり申請します。 |
| --- |
| 記  情報処理システムの運用及び管理に関する指針に関する取組の実施状況  　(1) 企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性の決定   | 公表媒体（文書等）の名称 | MudLab株式会社 DX戦略 | | --- | --- | | 公表日 | 2025年5月20日 | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | https://drive.google.com/file/d/1lz43jW2i8q5IHKy-BUbQjim8\_itv3U6I/view  当社HPにおける上記URLの見出し【DX推進の基本方針】 | | 記載内容抜粋 | 当社は、アパレル事業を通じて、顧客一人ひとりのニーズに寄り添いながら、継続的に価値を提供できる小規模事業者としての柔軟性と機動力を活かし、持続可能な成長を目指しています。  【情報処理技術の活用の方向性】  ①省力化・効率化の推進  限られた体制の中で効率的に事業を展開するため、AIツールやクラウドアプリケーションを活用し、受注管理、顧客対応、在庫管理、会計業務などの業務を自動化・最適化することで、業務負荷の軽減と対応スピードの向上を実現しています。  ②データの利活用による付加価値創出  顧客情報や販売履歴、市場動向を蓄積・分析し、SNSやECを通じたデジタルマーケティングに反映させることで、顧客満足度の向上を図り、リピート率や客単価の改善につなげています。データをもとにした施策により、新たな商品提案や販促手法の開発にも取り組んでいます。  デジタル技術の進化を柔軟に取り入れることで、迅速な意思決定と対応力を活かしながら、今後も質の高いサービスと新たな価値をお客様に提供し、競争力のある事業運営を継続してまいります。 | | 意思決定機関の決定に基づいていることの説明 | 当社は取締役会設置会社ではないため、取締役会に準ずる機関である経営会議（2025年5月19日開催）にて承認され、ホームページに公表 |   (2) 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策（戦略）の決定   | 公表媒体（文書等）の名称 | MudLab株式会社 DX戦略 | | --- | --- | | 公表日 | 2025年5月20日 | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | https://drive.google.com/file/d/1lz43jW2i8q5IHKy-BUbQjim8\_itv3U6I/view  当社HPにおける上記URLの見出し【企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策】 | | 記載内容抜粋 | 当社では、限られた事業体制の中で最大限の成果を上げるために、DX（デジタルトランスフォーメーション）を戦略の柱とし、日常業務の効率化と顧客価値の創出を両立する施策を実施しています。  DX推進の基本方針  DXを推進するにあたり、以下の3つの視点を軸に計画的に取り組みを進めています。  (1) バックオフィスの業務効率化  (2) ITスキルの向上と知識の定着  (3) 顧客体験価値の向上と販売施策の最適化  DXの実施内容  (1) 業務効率化・生産性向上のための取組  ・スケジュール管理、顧客管理、経理処理などの業務をクラウドサービスで一元管理  ・見積作成、受発注、在庫管理の自動化を進め、処理スピードと正確性を向上  ・契約関連業務を電子化し、郵送・紙保存の手間を削減  ・AIアシスタントを活用したタスク管理・資料作成補助により、事務負荷を軽減  (2) データの利活用による価値創出  ・顧客属性・購買履歴などのデータを収集・分析し、ECサイトやSNS広告でのパーソナライズ施策を展開  ・販売実績や季節変動をもとに、予測AIを活用した在庫量・商品展開の最適化を実施  ・Googleアナリティクス等を活用し、顧客行動データをもとにサイト構成やプロモーション内容を改善  (3) ITスキルと情報リテラシーの向上  ・自身の継続的な学習として、DX関連のeラーニング、情報セキュリティ、マーケティングオートメーションの最新知識を習得  ・利用中ツールのアップデートや改善に対応できるよう、定期的に学習時間を確保  今後の展開  これらの取組を通じ、効率的な業務運営とデータを基盤とした戦略的な経営を進め、持続可能で強靭な事業体制の確立を図ります。少人数体制であっても、最新の技術を柔軟に取り入れることで、競争力のあるビジネスを構築してまいります。 | | 意思決定機関の決定に基づいていることの説明 | 当社は取締役会設置会社ではないため、取締役会に準ずる機関である経営会議（2025年5月19日開催）にて承認され、ホームページに公表 |   　　① 戦略を効果的に進めるための体制の提示   | 戦略における記載箇所・ページ | https://drive.google.com/file/d/1lz43jW2i8q5IHKy-BUbQjim8\_itv3U6I/view  当社HPにおける上記URLの見出し【戦略を効果的に進めるための体制の提示】 | | --- | --- | | 記載内容抜粋 | 【戦略を効果的に進めるための体制の提示】  当社では、DX戦略を着実に推進するため、事業運営の中核にDXの視点を組み込んだ業務体制を構築しています。小規模体制であることを活かし、迅速な意思決定と柔軟な実行を可能とするシンプルかつ実効性の高い体制を採用しています。  ①DX推進における体制の概要  経営者自らがDX推進の責任者を担い、業務全体の見直しやデジタル化に関する意思決定、計画策定、実行・検証までを一貫して行います。これにより、現場の実態に即した機動的な戦略推進が可能となっています。  ②実施内容と対象分野  以下のような業務分野に対して、継続的な見直しと改善を実施しています。  ・AIツールやクラウドサービスを活用した業務の自動化・簡素化  ・顧客管理や販売分析におけるデータベースの構築と活用  ・SNSやECサイトを中心としたデジタルマーケティングの強化  ・情報セキュリティ対策の実施とデジタル環境の安定維持  ③スキルアップと実務対応力の強化  最新技術やツールを円滑に活用できるよう、外部リソース（オンライン講座、技術ブログ、ベンダー提供資料など）を活用し、継続的に知識・スキルの向上を図っています。必要に応じて、ノーコード／ローコードツールの操作訓練や、AIツールの活用法など、個別テーマごとの学習も実施しています。  このような体制のもと、戦略に基づいた技術導入と業務改善を段階的に行い、限られた体制でも成果を最大化できる柔軟な経営を実現してまいります。 |   　　② 最新の情報処理技術を活用するための環境整備の具体的方策の提示   | 戦略における記載箇所・ページ | https://drive.google.com/file/d/1lz43jW2i8q5IHKy-BUbQjim8\_itv3U6I/view  当社HPにおける上記URLの見出し【最新の情報処理技術を活用するための環境整備の具体的方策】 | | --- | --- | | 記載内容抜粋 | 当社では、DX戦略を着実に実行していくため、業務に必要な情報処理環境を整備し、常に最適な技術を活用できる状態を維持しています。以下のような環境整備を継続的に進めています。  ①デジタル業務環境の整備  ・ノートPCやタブレット端末、モバイルPOSなど、業務に必要な機器を常に最新状態に保ち、スムーズな情報処理と遠隔業務対応を実現  ・クラウドストレージ、スケジュール管理、帳票作成などに対応したツールの導入と適切なライセンス管理の徹底  ②最新技術の導入・維持に係る費用の確保  ・AIツールやマーケティングオートメーション、分析プラットフォームなどの導入に必要なコストを事業予算に組み込み、毎年更新計画を実施  ・ITインフラの保守・アップデートにも計画的に投資を行い、トラブルリスクの最小化を図る  ③DXリテラシーと知識の継続的習得  ・業務上必要となるAIやクラウド、セキュリティに関する知識の習得・更新のため、外部eラーニングや専門記事・資料の閲覧を定期的に行い、実務への活用力を高める  ・使用ツールのバージョンアップや新機能導入時には、自らマニュアル・サポート情報を精査し、迅速に対応  これらの取組により、常に変化するIT環境に柔軟に適応しながら、事業運営に必要な処理能力と安全性を確保し、DXの土台となる業務基盤の強化を継続してまいります。 |   (3) 戦略の達成状況に係る指標の決定   | 公表媒体（文書等）の名称 | MudLab株式会社 DX戦略 | | --- | --- | | 公表日 | 2025年5月20日 | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | https://drive.google.com/file/d/1lz43jW2i8q5IHKy-BUbQjim8\_itv3U6I/view  当社HPにおける上記URLの見出し【戦略の達成状況に係る指標の決定】 | | 記載内容抜粋 | 当社では、DX戦略の進捗状況とその成果を客観的に把握するために、業務効率、コスト、顧客対応、スキル習得などの分野において以下の指標を設定しています。これにより、施策の効果検証と継続的な改善を図ってまいります。  業務効率に関する指標  ・事務作業時間の削減：従来比で30％以上の作業時間削減を目指す  ・繰り返し業務の自動化率：業務テンプレート・自動処理ツールの導入により50％以上の業務を自動化  コスト削減に関する指標  ・印刷や紙書類の削減率：ペーパーレス推進により紙使用量を年間50％以上削減  ・ツール利用による経費削減：クラウド活用で年間通信・事務コストの15％以上削減  顧客対応・満足度に関する指標  ・ECまたはSNS上での問い合わせ対応速度の改善：平均応答時間を2営業日以内に短縮  ・アンケートまたはレビューでの顧客満足度：平均評価4.5点以上（5点満点中）を維持  スキル・知識習得に関する指標  ・年間受講・修了したDX関連研修の回数：少なくとも年3回以上の自己学習・外部講座を修了  ・ツールの新機能への習熟度：主要ツールの新機能を導入後1ヶ月以内に習得  これらの指標は定期的に見直しを行い、経営方針や市場環境に応じて柔軟に更新しながら、戦略の精度と成果の最大化を図ってまいります。 |   (4) 実務執行総括責任者による効果的な戦略の推進等を図るために必要な情報発信   | 発信日 | 2025年5月20日 | | --- | --- | | 発信方法 | https://drive.google.com/file/d/1lz43jW2i8q5IHKy-BUbQjim8\_itv3U6I/view  当社HPにおける上記URLの見出し内【実務執行総括責任者による効果的な戦略の推進等を図るために必要な情報発信】 | | 発信内容 | 当社では、DXの基本方針および戦略に関する情報を、代表者自身が定期的に発信しています。これにより、事業の方向性や価値提供の考え方を社外にも明確に示し、顧客や取引先との信頼関係の強化につなげています。  発信内容と手段  代表者の視点から、DX推進に関する基本的な方針、取り組み状況、今後の展望などをホームページやSNS、ECサイト上のブログ等を通じて発信しています。特に以下のテーマについて情報公開を行っています。  ・DX推進の基本方針と目的  ・活用しているツールや導入背景  ・顧客との関係性向上につながる具体的なデジタル施策  ・今後の展開や課題認識、対応の方向性  情報発信の目的  当社では、顧客一人ひとりのニーズにより深く応えるために、データに基づくマーケティング施策や業務効率化の取り組みを進めています。こうした情報を開示することにより、事業の透明性を確保するとともに、新たな顧客の信頼獲得や事業パートナーとの連携促進を図っています。  今後の取り組み  引き続き、デジタル技術の導入経緯や活用成果、代表者自身の学び・気づきを含めた実体験ベースの発信を重ねていくことで、共感性のあるブランド形成と、顧客との持続的なつながりの創出を目指してまいります。 |   　(5) 実務執行総括責任者が主導的な役割を果たすことによる、事業者が利用する情報処理システムにおける課題の把握   | 実施時期 | 2025年　5月　～　　　継続中 | | --- | --- | | 実施内容 | 当社では、利用している情報処理システム（業務管理、販売分析、EC連携、顧客管理等）における課題の把握と対応を、実務執行総括責任者が主導して進めています。  自己診断による現状把握  経済産業省が策定する「DX推進指標」に基づく自己診断を実施し、現状の課題や改善点を明確化しています。あわせて、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が提供する自己診断結果入力サイトにも登録を行い、客観的な分析と継続的なモニタリングに取り組んでいます。  定期的な見直しと課題整理  定期的に自身の業務環境・ITツールの使用状況について振り返りを行い、操作性・連携性・セキュリティ・コスト面など多角的な観点から課題の有無を確認しています。小規模体制だからこそ、導入・運用に伴う細かな問題にも気付きやすく、柔軟な改善策を早期に講じることが可能です。  今後の対応方針  今後もツール導入前後の効果検証やDX推進指標による再診断を継続し、システムの更新・移行・機能強化の判断に役立ててまいります。また、必要に応じて外部専門家の知見も活用し、常に最適なIT活用が行える環境を維持します。 |   　(6) サイバーセキュリティに関する対策の的確な策定及び実施   | 実施時期 | 2025年　5月　～　　　継続中 | | --- | --- | | 実施内容 | 当社では、顧客情報をはじめとする事業に関わる重要な情報資産を保護するため、情報セキュリティ対策を積極的に推進しております。その一環として、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が推進する「SECURITY ACTION」において二つ星の自己宣言を行い、安全で信頼性の高い事業運営を目指しています。 |   （注）(1)～(3)の取組において公表先のURLを提出しない場合は次の①の書類を、(4)の取組において情報発信内容を確認できるウェブサイトのURLを提出しない場合は、次の②の書類を添付すること。また、必要に応じて③、④の書類を添付できる。  ①　(1)～(3)の取組における、公表を行っていることを明らかにする書類（公表先のウェブサイトの画面を印刷した書類等）  ②　(4)の取組における、情報発信を行っていることを明らかにする書類（情報発信内容を確認できるウェブサイトの画面を印刷した書類等）  ③　(1)の取組における企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性、(2) の取組における戦略を補足説明するための書類（最新の情報処理技術の変化による影響を踏まえた観点から決定していることを説明する書類等）  ④　(5)～(6)の取組における、実施内容を補足説明するための書類 |

備考．用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とすること。

様式第１６（第４０条関係）（第四面及び第五面）

| 情報処理の促進に関する法律施行規則第４１条第２号に掲げる基準による認定を受けようとする場合は、以下についても記載すること。  　(1) データ連携システムの運用及び管理に関する説明   | データ連携システムの目的、概要に関する説明 |  | | --- | --- | | データ連携システムの運用及び管理を開始した日 | 年　　月　　日 | | ガイドラインその他の機構が定める文書等の名称 |  | | 開発、運用及び管理を共同で行うことが合理的であることの説明 |  | | データ連携システムにおいてデータ流通機能及び連携サービス機能を有することの説明 |  |   (2) 利用者に対するデータの管理に関する事項の開示   | 文書等の名称 |  | | --- | --- | | 記載箇所・ページ |  | | 実施内容 |  |   　(3) データ連携システムの安全性及び信頼性の確保のために必要な措置の継続的な実施   | 文書等の名称 |  | | --- | --- | | 記載箇所・ページ |  | | 実施内容 |  |   　(4) データ連携システムに接続する情報処理システムの安全性及び信頼性を確保されていることを確認するために必要な措置の継続的な実施   | 文書等の名称 |  | | --- | --- | | 記載箇所・ページ |  | | 実施内容 |  |   　(5) 他のデータ連携システムとの相互の連携を確保するためにデータ連携システムが準拠する基準の公表   | 公表媒体（文書等）の名称 |  | | --- | --- | | 準拠する基準に対してデータ連携システムで機能を整備していることの説明 |  |   　(6) データ連携システムに係る事業の実施に必要な経営の安定性及び経営資源の確保   | 経営の安定性の確保に関する説明 |  | | --- | --- | | 経営資源の確保に関する説明 |  |   （注）(1)～(6)の取組においては、必要に応じて実施内容を補足説明するための書類を添付するものとする。 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |

備考．用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とすること。

様式第１６（第４０条関係）（第六面）

（記載要領）

１．「申請年月日」欄は、経済産業大臣に認定申請書を提出する年月日を記載すること。

２．「住所」欄は、一般事業主が法人の場合にあっては、主たる事務所の所在地を記載すること。

３．一般事業主が法人の場合であって法人番号が記入されている場合は、一般事業主の氏名又は名称、代表者の氏名、住所の記載を省略することができる。

４．申請を行う類型について、該当するものの番号を○で囲むこと。

５．申請内容は正しく記載すること。認定後、虚偽または不正の申請を行ったことが判明した場合には、認定の取消し等所要の措置を講ずることがある。